

社報 御霊本宮

第86号

発行者

御霊神社本宮
宮司 藤井利夫
五條市霊安寺町
0747-23-0178

発行日

令和3年
9月15日

彼岸と社日

彼岸の行事はインド、中国の仏教にはないことから、日本独自のものであるといわれ、日本古来の太陽信仰や祖霊信仰が起源であると考えられています。彼岸という言葉は、豊作を太陽に祈願する太陽信仰の「日の願い」が「日願」として、仏教の「彼岸」と後から結びついたものであるという説もあります。

います。

本宮の脇社殿にも祀られている早良親王は、桓武天皇の実弟です。長岡京遷都の責任者であった藤原種継が暗殺され、首謀者をはじめ暗殺犯などの多くが皇太子の早良親王派であったことから早良親王も関わりありとして幽閉されました。その後、淡路へ配流される途中、無実を訴えて断食していた親王は死去しました。無実の罪で亡くなった親王の崇りがあるとして、慰霊のための御霊会が行われています。

「春分の日」「秋分の日」は明治から昭和のはじめ頃までは、「春季皇霊祭」「秋季皇霊祭」という名称の祝祭日でした。皇霊祭とは、宮中における歴代天皇や主たる皇族の御霊祭りであり、民間では各家の祖霊祭が行われます。



彼岸に最も近い戊の日は、社日と呼ばれ、氏子が神社に参詣する日とする習わしがありました。

社日は、産土神（生まれた土地の守護神）を祀る日で、春と秋にあり、春の社日を春社、秋の社日を秋社と呼びます。もとは古代中国の行事で、「社」とは土地の守護神、土の神を意味します。春には五穀の種を供えて豊作を祈り、秋にはその年の収穫に感謝します。ちなみに今年の秋社は九月二十七日（月）となっています。

春の社日に酒を呑むと耳が良くなるという風習があり、これを治豊酒といえます。新類題発句集には、「治豊酒や遠里に野の鐘の声」、定本鬼城句集には村上鬼城の「治豊酒の酔ふほどもなくさめにけり」という句が載っており、治豊酒は春の季語となっています。

宇智郡 狛犬めぐり

南阿田町 八坂神社

鳥居の額に

は牛頭天王社

と刻まれています。

牛頭天



王はインド祇園精舎の守護神ですが、日本では素戔嗚尊と習合しました。慶應三年（一八六七）に奉納された狛犬は、体のあちらこちらに苔が生え、長い時間を経ていることが実感されます。

尾は中央で渦を巻き、尾先は七本に分かれています。その尾先は真っ直ぐ上に伸びているのではなく、やや後方に反り返るようになっていきます。後ろ脚だけでなく前脚の付け根当たりにも大きな走毛があり、



中秋名月と後の月

九月二十一日と

十月十八日

中秋の名月

とは、旧暦八

月十五日の月

をいい、今年

は九月二十一

日になります。

必ずしも満月になるとは限らず満月

でない日の方が多いのですが、今年は

満月の日と一致することです。

仲秋と書かれることがあります。旧

暦では一月から三月を春、四月から六

月を夏、七月から九月を秋、十月から

十二月を冬としていました。仲秋は秋

の真ん中の月である八月を意味し、仲

秋の月は八月の月とされ、八月の毎日

に見える月となります。

中秋名月は「芋名月」と呼ばれるこ

ともあります。中秋の名月をめぐる習



慣は、平安時代に中国から伝わったと言われている。

また旧暦の九月十三日の夜を「十三

夜」と呼び、日本ではその夜にも月見

をする習慣があります。十三夜は、「後

の月」と呼ばれ、「豆名月」「栗名月」

とも呼ばれています。今年の十三夜は

十月十八日です。

月読神

月と農耕

昼と夜の起源

月の神様は「月読命」といい、一般

的に月を神格化した、夜を統治する神

であると考えられています。

月読神は「三貴子」の一人です。伊

邪奈岐命が川で禊をした時、左目を洗

った時に天照大神、右目を洗った時に

月読神、そして鼻を洗った時に須佐之

男神が生まれました。そして伊邪奈岐

命は天照に天の世界を、月読に夜の世

界を、須佐之男に海を統治するように

命じました。

日本書紀には、天照大神の命で月読命が保食神（食物を司る神とされる）

のもとへ食べのものを種を分けてもら

うために、遣わされる話が記されてい

ます。

天照大神の命で訪れた月読命に保

食神は口から出した海山の数多くの

食物を奉りますが、これを見た月読命

は「汚らわしい。口から出した物を私

に食べさせる気か」と怒り、剣で斬り

殺してしまいます。保食神の死体から

は牛馬や蚕、稲などが生成し、天照大

神は「人民が生きていくのに必要なも

のだ」と言ったと書かれています。月

と農耕の関わりを表現されているも

のと思われまます。

高天原に帰って報告したところ、天

照大神は怒り「お前は悪い神だ。二

度と会わない」と言って、月読命とは

二度と会いませんでした。だから月と

日は顔を合わせないと記されています

す。これが「日月分離」の神話であり、

昼と夜の起源となっています。

八百劫の神々から

天手力男神

天岩戸に隠れた天照大神の手を取

って引き出した神です。このことによ

り、高天原と葦原中国は暗黒の世界か

ら陽が照り輝く世界に戻りました。

古事記には、天孫降臨の際、天照大

神が三種の神器に思金神、手力男神、

天石門別神を副えたとあり、手力男神

は、伊勢の佐那那県（三重県多気町佐

奈）に鎮座したとされています。

文字通り、天上界で一番手の力が強

い神を意味し、古事記では天手力男、

日本書紀では天手力雄と表記されて

います。

長野市の戸隠神社の奥社に天手力

雄命が祀られています。天照大神が天

岩戸に二度と戻らないようにするた

め、天手力男神がこの岩戸を投げ飛ば

した（蹴飛ばしたともいわれます）の

だそうです。すると岩戸は戸隠まで飛

び、戸隠山になったと云われます。

五條十八景を訪ねて

第一景「葛城夕嵐」

葛嶺の白雲 凝りて飛ばず
磐橋の神女

見ること応に稀なるべし
晩晴たちまち作り 煙嵐去る
散じて人間に向ひて客衣を侵す

葛城山には白雲がたちこめ、岩橋の上にお立ちになっている女神の姿は見るすべもない。夕方急に晴れてきて、もやが消えゆく。俗世界に流れてきて、旅衣をしっかりとしめらすことよ。



葛城山
は金剛山

に連なる
標高九五
九mの山
で、山頂
は大阪府



葛城高原のツツジ

に属するため、大阪府の最高峰となっています。

続日本紀には、葛城山に役小角（役行者）が住んでいたと記されています。役小角は、日本霊異記によると、若くして雲に乗って仙人と遊び、孔雀王呪経の呪法を修め、鬼神を自在に操ったといい、鬼神に命じて大和国の金峯山と葛木山の間に橋をかけようとしたという話も載っています。

修験道の山として開かれた葛城山は、現在では山頂付近は高原として整備され、人々が憩う明るい雰囲気のある所となっています。五月上旬から中旬にかけてツツジが開き、多くの観光客で賑わいます。

秋季例祭齋行の方向性

今年の御霊本宮秋季例祭は、十月二十三日（土）、二十四日（日）の二日間で行われます。日程等の詳細はまだ決まっていませんが、次号で報告できると思います。

昨年は、初日午後より例祭、神幸祭唐櫃による渡御、御旅所宵宮祭、当歳児御神樂を行いました。二日目は御旅所例祭と本宮での還座祭のみを齋行しています。

今年も昨年と同様にと考えていますが、より規模を縮小する可能性もあります。



賑やかな秋に
なりそうな

新型コロナウイルス感染者の増大で、秋祭りは盛大に行えないような感じですね。じゃあ何が賑やかなのかというと、まずは自民党の総裁選。奈良県がにわか活気づいたのは高市氏が総裁選に名乗りを上げ、安倍元首相が支援するといふニュースが流れたことによります。奈良県出身（選挙区）の首相は今までいません。奈良県初の、また女性初の首相の誕生か、ということでも盛り上がっているようです。

次は市議選です。もう選挙戦は始まっているようで、各候補の挨拶まわりが進められているようです。

盛り上がるのすごいのは、なんといってもオリックスが優勝争いをしていることでしょうか。え？ 盛り上がっているのは阪神ファンだろうか？ いやいや、関西の2チームで日本シリーズが行えたら最高じゃないですか。

Instagram
@goryohongu



Twitter
@goryohongu



#御霊本宮 #goryohongu を
付けて投稿してください。

公式ホームページ

<http://goryojinja.or.jp>

日本書紀にみる

十二代景行天皇(三)

十二年秋七月、熊襲が背いて貢物を奉りませんでした。八月十五日、天皇は筑紫に向かいました。九月五日、周芳の国の娑磨(山口県佐波)に着きました。

天皇は南方を眺めて群卿たちに言いました。「南の方に煙が多かったです。きっと賊がいるのだろう」

そこで多臣の祖の武諸木、国前臣の祖の菟名手、物部君の祖の夏花を遣わして様子を見させました。そこには女がいて、神夏磯媛といひます。その手下は非常に多く、一国の首長でした。

天皇の使者がやってきたことを聞いて、磯津山の賢木を抜きとり、上の枝に八握剣をかけ、中枝に八咫鏡をかけ、下枝に八尺瓊をかけ、白旗を舟の舳先に立ててやってきて、「どうか兵を送らないで下さい。私達の仲間に背く者はいません。すぐにでも帰順しま

す。ただ、他に悪い賊がいます。その一つを鼻垂といひます。みだりに主の名を語って山谷に人を呼び集め、宇佐の川上に屯しています。その次の者を耳垂といひます。人を損ない破り、貪り食い、人民を掠めています。これは御木の川上にいます。第三の者を麻剝といひます。密かに仲間を集めて、高羽の川上にいます。第四の者を土折猪折といひます。緑野の川上に隠れており、山川の険しいことを生かして人民を掠とっています。この四人は住んでいるところが要害の地です。それぞれ、その仲間を従えた各地の長です。皆、皇命には従わないと言っています。速やかに討たれるのがよいでしょう。逃さないようにして下さい」と言いました。

そこで武諸木らが、まず麻剝を誘いました。赤い上衣や袴、種々の珍しい物を送って、従わないという三人をおびき出しました。それぞれ仲間をつれてやってきたところを全部捕えて殺

す。天皇はついに筑紫に出て、豊前国の長峽県(福岡県長尾)に着いて、行宮を立てて休みました。そのところを名づけて京(福岡県京都)と言ひます。冬十月、碩田国に着きました。その地形は、広く大きく美しいところでした。よって碩田と名づけました。速見村に着きました。女の人がいてこれを速津媛といひます。その地の長です。天皇がお出でになると聞いて、自ら迎えに出て、「この山に大きな石窟があり鼠の石窟といひます。そこに二人の土蜘蛛が住んでいます。一人を青といい、もう一人を白といひます。また直入県(大分県直入)の禰野に三人の土蜘蛛がいます。一人を打猿といひ、もう一人を八田といひます。さらに国麻侶といひのがいます。この五人はそれぞれ強力で仲間が多く、皆、皇命には従わず、兵を興して戦うと言ひます」と言ひました。

(次号につづく)

万葉の花たち

いちし(ヒガンバナ)

道の辺の 老師の花の いちしろく
人皆知りぬ 我が恋愛は

柿本人麻呂歌集(巻十一・二四八〇)

道端の老師の花が目立つように、私の恋しい妻のことが皆に知られてしまった。



「いちしろく」とは「はっきり」とか「目立って」というような意味で「いちし」と「いちしろく」を掛けて詠んでいます。

老師は具体的に何をさすのかは確定していません。ギシギシ、イタドリ、イチゴ、エゴノキなどの説があります。彼岸花が最有力候補といわれています。彼岸花は、曼珠沙華ともいいます。特に彼岸の頃、田んぼの畦などで赤い花を咲かせます。